

2025 年 8 月 15 日

お客さま各位

水戸証券株式会社
投資顧問部

リバランス実施の背景

1. TAA 実施に関して

- ・ 8 月 13 日（水）の投資政策会議において、投資判断の一部を変更させていただきました。これまでの資産配分比率に占めるコモディティの割合を引き上げることといたします。
- ・ TAA は、相場環境見通しに基づき資産配分を変更するものです。
- ・ 以下、その背景につきご案内申し上げます。

2. TAA 実施の背景

＜コモディティ＞ 「やや弱気」→「中立」

- ・ コモディティ相場は、8 月に入り米景気減速懸念の高まり等から、需要減少が意識され軟調推移となりました。足もとの景気減速懸念の高まりは、単月の経済指標等を背景としており、景気減速と決めつけるには時期尚早と考えます。
- ・ また、米トランプ政権による関税政策については、世界景気を減速させる一因だと思われませんが、8 月によりやく国別関税が導入されたことを勘案すると、実際の景気悪化は後ずれしたと考えます。
- ・ 構成比最大の原油については、OPEC プラス（石油輸出国機構と非加盟産油国）による増産が前倒しで行われ、24 年 1 月から始まった自主減産が 25 年 9 月で解消されることが決定されました。OPEC プラスが、25 年 10 月以降に追加の増産に踏み切るかには不透明感があり、更なる供給増加を期待できる環境ではなくなったと思われます。
- ・ 加えて、サウジアラビアがアジア向けの原油販売価格を 2 か月連続で引き上げていることを勘案すると、主要産油国は原油需要の強さに自信を持っていると推察されます。
- ・ その他の品目である、貴金属（金や銀）については、米ドル離れに起因した新興國中銀による買い入れ等から堅調推移が予想されます。産業用メタル（銅やアルミ）については、米トランプ政権による関税政策の不透明感が払拭されつつあること等が下支えになると考えます。

このような最近の投資環境を踏まえ、コモディティの投資判断を変更することといたしました。

以 上